

1	審議会名	市民による事業評価(青少年の育成 第4回)
2	日時	平成25年5月21日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	教育委員会第二庁舎 1階 会議室
4	出席者	田村 保 T L 海野友恒委員、小池正彦委員、小岩井礼子委員 佐藤満博委員、杉崎友子委員、関 和弘委員、高橋 仁委員 中村京子委員、山浦正嗣委員、渡辺 務委員
5	市側出席者	浅野生涯学習課長、倉島学校教育課長、佐藤スポーツ推進課長 田中中央公民館次長、高寺青少年係長 中村行政改革推進室長、西沢行政改革推進係長、他行政改革推進室2名
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年5月30日

協議事項等

- 1 開 会(中村行政改革推進室長)
- 2 チームリーダーあいさつ(田村チームリーダー)
以下、チームリーダーを「T L」、副チームリーダーを「S T L」
- 3 議 事
 - (1) 前回会議録の確認
 - ・修正なく承認
 - (2) 評価対象事業の説明

ア 「地域青少年育成指導者養成講座」(以下「養成講座」)について

 - ・資料に沿い、浅野生涯学習課長から養成講座の事業概要を説明
 - ・委員から事前に出された質問に対し回答

(質問事項) 地域の子どもたちは地域住民みんなで育てることが必要であり、地域の行事にできる限り大勢参加させることが望ましいと思う。

(事務局) 核家族化や少子化、家庭の孤立化等社会の変化に伴い、家庭教育や学校教育を支える地域の力が重要になっている。地域の子どもは地域の大人が育てるという意欲を高め、地域の行事等への参加の働きかけにより、子どもたちに様々な体験や交流の場を与えることは、今後も積極的に推進すべきことと考えている。

(質問事項) 地域の行事に子どもたちの参加率が低いので、学校と公民館との連絡を密にし、地域の子どもと地域の大人が一緒になる機会を多く作るべき。

(事務局) 学校では、地域行事への参加を促しているが、特に土日は部活動や社会体育へ時間を取られている傾向にある。

また、地域の行事に中学生の参加を求めることについては、中学生が参加したくなる行事とすることが必要であるので、行事の企画段階から中学生とともに企画するなど工夫を凝らす必要があると考える。

(質問事項) 中学校単位、又は公民館単位に年間行事カレンダーを作成し、学校から子どもたちに行事に参加するように指導することはどうか。また、各自治会と家庭にも配布し、年間の行事予定を各家庭でも共有させることはどうか。

(事務局) 学校では、年間行事計画を作成しており、希望のある自治会や公民館に提供している。なお、年間計画は全児童生徒宅に配布されている。

また、中学校と公民館の配置状況は、市内すべて同一ではなく、地域の実状や特性などから、双方の行事を併せたカレンダーの作成は難しいのが状況。なお、各公民館で作成している「公民館だより」を自治会や地域内の学校へ配布し、公民館事業の情報提供を行っ

ている。

・以降、審議

(T L) 「養成講座」事業は、始まってまだ4年であるので、率直な意見をいただきたい。

(委 員) 自分の子どもには自然体験活動をさせている方と思うが、川遊びをする際も子どもは何が危険か分からない。また、子どもの危険を回避する反射能力が低下している気がしている。親世代も自然の中の危険が分からないことが多いので、学ぶためにもこの事業の充実を望んでいる。

(委 員) 「養成講座」受講後、指導者として要請がどの程度あったのかお聞きしたい。

また、地域には自然体験活動の指導者になれるような人材が大勢いると思われるので、そのような方を発掘し、地域ぐるみで指導者として活用出来たらもう少し幅が広がって行くのではないかと。

(事務局) 今年度から指導者の活用についてPRを始めたため、まだ周知が十分されていない時期ではあるが、市内小学校の登山学習への派遣要請もあり、実績が上がり始めている。

また、各地域には既に指導者として資格十分な人材がいると思われるが、子どもたちの行動範囲を考えると、身近な地域で指導者がいるということが必要なことと思う。丸子地域は以前から指導者協議会があり、自然体験活動に進んで取り組んできた。市全体としてもそのような活動が広がっていけばいいと思う。

(委 員) リーダーを育てることは大切なことと思うが、子どもたちに自然体験活動の場を提供しても、スポーツ活動に比べ参加者が非常に少ない。その理由に何があるのか分析する必要もあると思う。

(委 員) 子どもたちの余暇の時間の使い方に関わってくることと思うが、実際、クラブ活動、スポーツ少年団や社会体育の活動に時間を割いている場合が多いと思う。体験活動の開催についても、それらと日程調整もしないと、折角の事業も無駄に終わってしまう。

(委 員) 長野県は社会体育活動が盛んと聞くが、全国的に見てどうか。

(事務局) 社会体育は、学校教育の範疇から外れるので実態を正確には把握していないが、長野県は、特に中学校の場合に、クラブ活動について制限している。しかし、クラブ活動後、社会体育として活動をすれば実態は変わらずに練習等できるため、練習時間は長くなっているのが実態と思う。社会体育で活動する場合、希望者の参加とし、また、地域の指導者が入ることが条件とされている。

(委 員) 部活動等に時間が割かれてしまうので、(行事等への)参加者も少なくなってしまう。指導者を養成する以前の問題として、どう参加者を増やすかが課題と思う。

(委 員) クラブ活動に参加している子どもたちは、団体生活の中で譲り合い、認め合う気持ちが醸成され、比較的仲間づくりに関しては問題ないと思われるが、参加していない子どもたちの行事への参加を促したい。また、子どもたち自身もそうだが、その親たちの協力も得られるようにしていかないとならない。

様々な講座や講演会を企画するが、参加してもらいたい家庭はなかなか参加しないことが多いと感じている。

(委 員) 子ども遊び場がないと言うが、実は、それを取り上げているのは大人ではないか。

また、子どもの参加が少ないというのは、行事があることを親が子どもに教えていないのではないかと。各戸配布されている公民館だよりもあまり活用されていない。

若干話題が異なるかもしれないが、今日の朝刊に「我が家の生活安全課長に」という、阿南町の記事が掲載されていた。町が地元警察と連携し、子どもたちに、日ごろから防犯意識や規範意識を身に付けてもらうため、管内小学校2校を選び、児童14人に(生活安全課長に)委嘱し、学校や社会の決まりやルールを守る、いじめをしない、させない、手本となり下級生に正しいことを教えることを目的に、バッチを付けた児童が市内を回るといった子どもたちに大人の社会に触れさせるというもの。こういった、子どもに現場を見てもらうということも考えたらどうか。

いずれにしても、教育の基本は家庭であると思うが。

- (T L) 各委員から、子どもたちが行事に参加しないという意見が出されたが、子どもにいったい何が 필요한のか。これを考えていかないといけないと思うが。
- (委 員) 一般的にB/C(ビーバイシー)で考えると、この事業は継続する必要があるのかという結論に至らざるを得ないと思う。67万8千円の経費を掛け、講座への参加者が36人。民間の感覚で言えば見直しを求められることになると思う。
- (事務局) 行政の仕事は儲けることを目的にしているものではないため、何を成果として捉えるかということで結論は変わってくると思う。
- (T L) その意見は、最終的にこの事業は本当に必要なのかということに関わってくると思うが、今の子どもたちに何が 필요한のかという点についてもう少し意見をいただきたい。
- (委 員) 「生きる力、知恵、体力」ではないか。災害等の際、火の点け方も知らなければならない。人間としての「生きる力」「考える力」が必要ではないかと思う。
- (T L) 「生き抜く力」すなわち、自分で考え、自分で判断し、自分で行動していく力を、今の子どもたちは持っているだろうか。
- (委 員) スポーツを通じ、そのような力や自尊心を養っていこうとすることは一般的によく言うことだが、柔道の指導者である知人から、男子高生に柔道を教えた際、それまで前転ということをしたことがなかった生徒がいたことに驚いたと聞いたことがあった。幼少の頃に経験するはずの事が、現代は家庭の中でも体験しない。「生きる力」を議論する以前の話とも思う。
- (T L) これまでの議論で、子どもたちには、これまで以上の幅広い(体験)活動が必要と言えるのではないか。養成講座は、自然体験活動のリーダーを育てることを目的に4年前に始まったが、現在の子どもたちには自然体験活動に留まらず、もう少し幅広い活動を体験させる必要があると感じている。そのためには、自然体験だけに限らず、文化伝統の体験等までを含めた指導者の養成が必要ではないか。地域には、指導者にふさわしいと思われる方も大勢いるが、どうしたら地域の方と連携していけるのか。
- これまで養成講座に参加した方たちは、どのようなことを目的に講座に参加されたのか教えていただきたいが。
- (事務局) まず、養成講座に参加する以前から子どもたちとの関わりが多い方。その他、自分自身自然体験活動が好きでスキルアップをしたいという方。また、地域で育成会などの役員に就いている方、の概ね3つの参加動機に大別される。
- (T L) 子どもと遊びたいが、どうしたらいいかわからないという理由から養成講座に参加した方もいる。また、地域で子どもたちと関わっているが、もう少し幅広い力を付けたいという方もいた。そういった方もいるのであれば、この養成講座を大人づくりに生かせるのではないか。
- 大人たちを巻きこみ、子どもたちに還元させていくにはどうしたらいいかまで考えていければいいのではないか。
- (委 員) 養成講座の参加者は12名とのことだが、講座修了後、リーダーズバンクに登録された方を公開しているのか。
- (事務局) あくまでも、生涯学習課に要望があった場合に指導者を紹介するシステムを採っているため、氏名等の公開はしていない。
- (委 員) 行政の事業に、一緒に考えることができるようPTAを連携させていくということではできるのか。また、そのような工夫が必要なのではないか。
- (委 員) その意見に賛同するが、公民館、学校、担当課と同じ目的で事業を行っていると思うが、それぞれ独自に進めている感がある。縦割りで進めているのは折角の事業も生きてこないと思う。
- (T L) 指導者が必要な場面は、これからも増えていくだろうし、増やしていきたいと考える。子どもたちに本当の力を付けさせていくためには、学校に任せてばかりでなく、地域ぐるみで進めて行かなければならない。今は、「PTA」ではなく「PTCA」と言われ、C

(コミュニティ)が加わってきている。

また、指導者として、技術だけでなく活動のつくり方や子どもとの関わり方、ネットワークのつくり方まで身に付ける必要があると思う。学校、公民館それぞれで独自の人材バンクを持っているが、もう少し効率的に連携できればいいのではないかな。

(委員) 次回のテーマにもつながるが、子ども会育成会と連携を図っていけばいいのではないかな。

(T L) 今後、評価する事業は全て関連してくるが、事業全体として考えたときにどうするべきか大きな視点で考えてもらいたい。養成講座への参加だけでは子どもたちとの関わりは作れないし、ネットワーク作りも難しいと思う。では、どのように事業間で補完し合うのがいいか、という議論になってくると思う。

(委員) 指導者や地域のリーダーを育てようと考えても、平日、時間に余裕がある方でないと養成講座に参加することも難しい。

また、子どもたちが体験活動等に参加しようとしても、保護者が多忙であるため参加できないということもあるので、この点も改善できたらと思う。

リーダーを養成していくことも必要だが、子どもたちと関わることができる人が、できることから始め、少しずつ輪を広げていく考え方もいいのではないかなとも思う。

(T L) できる人が、できる範囲で、できる時に指導者になればいいのではないかな、という意見だが、そのような方が実際地域にどの程度いるのか把握したいとも思う。

(委員) 地域で熱心に活動に参加してくれる方は大変貴重で、そのような方がいる地域は子どもが育ち、町がまとまっていくと思う。そのような方が注目されるような方策が考えられれば広がりも早いのではないかな。

(T L) そのような方たちはネットワークも作れるし、地域との連携の回り方もうまい。

養成講座受講後に、修了書等を発行し指導者として認定することができれば、その方が責任を持ってネットワークを作ることもできるのではないかな。

(委員) 養成講座修了生が、その後活動しやすいようバックアップすることが必要ではないかな。

(T L) 修了生の組織ができれば相互の関係ができ、例えば、修了生が学校の近くにいれば指導を依頼することもしやすくなる。

(委員) 養成講座の受講費用はどの程度か。また、リーダーズバンクに登録後、派遣された場合は、報酬は支払われるのか。

(事務局) 受講については、実費負担以外無料となっている。また、登録後派遣された場合は、1回3千円が支払われる。

イ「子ども会育成連絡協議会」(以下「協議会」)について

・資料に沿い、浅野生涯学習課長から協議会の事業概要を説明

・以降、審議

(T L) 前出の養成講座と関連して考えていかなければならないと思うが、ご意見を。

(委員) 資料編 15Pの協議会決算書では、32万円余を次年度へ繰り越しているが、繰り越さなければならぬ理由があるのか。

(事務局) 年度当初には市からの補助金が間に合わないため、それまでの協議会の運営費に充てられているものである。

(委員) 資料の「かわいい子には体験を！」パンフレットが配布されている範囲は。

(事務局) 国の機関が作成したものであるため部数が十分ないが、子ども会育成会関係や、体験活動を進める機会に配布している。

(委員) このようなパンフレットをPTA等に配布することも考えたらどうか。機会を捉えて啓発していく必要があると思う。

(委員) 小学生は比較的「子ども会」へ参加するが、中学生になると参加しなくなってしまう。

(T L) 子どもは、中学生になると大人になったような気がする。お祭りへの参加も中学生になると見る側にまわってしまう。

- (委員) 地域によっては、お祭りへ参加する意識が低く、盛り上がりには欠けるところもある。
- (T L) 丸子地域は「子ども会」を児童の健全育成の場と位置づけてきた背景があり、子どもたちが主体的に活動を作る「子ども会」への転換がなかなかできていなかった。上田地域の「子ども会」は、子どもたちが主体的な活動を行う場として形成されてきたが、地域によって若干考え方が異なっている。
- (委員) 育成会は、対象が小学生までとの認識であった。自分自身も、中学生になるとお祭りへの参加も見物にまわっていた。
「子ども会」への中学生の参加をどのように考えていくか、ということも育成会を検討する上で必要なのではないか。
- (委員) 自分の自治会では、小学生も中学生もお祭りへ比較的参加していると思う。地域の老人施設との関係も上手くいっているように思う。
- (委員) 「子ども会」が形成されてきたのは、昭和25～26年ころの戦後間もなくの時代であったと思う。当時は、娯楽がない時代だったため、「子ども会」活動は非常に盛んであった。
- (委員) 数年前の中学校長が、学校主導で生徒を地域の行事等へ参加させてきたことがきっかけで、第二中学校区の中学生のお祭りへの参加が盛んになり、地元行事への参加も根付いたように思う。また、地域でも中学生には中学生の役割を持たせている。
- (委員) 「子ども会」を取り巻く環境は変わってきていると思うが、基本的に大切な活動だと思うので、時代に惑わされることなく「子ども会」活動は推進して行かなければならないと思う。子どもは環境によって変化する。
- (T L) 地元で里山の活動に携わっているが、子どもたちは自然の中で豊かに活動をしている。しかし、休日の活動となるとクラブ活動等に時間を取られてしまい参加しないことが多い。子どもたちにスポーツを通して、団体活動を体験させることはいいことと思うが。
- (委員) P T Aの清掃活動にも子どもを参加させようと学校に掛け合ったことがあり、それを機に子どもたちも活動に参加するようになった。学校としても子どもたちを後押ししてもらいたい。
- (T L) 「子ども会」とは、子どもたちが自主的に運営し、自主活動する場と再確認するとともに、その活動を周囲の大人や地域がどう支えていくか。育成会の活動も、熱心な指導者がいると「子ども会」活動も生きる。

本日は、時間となったのでこれまでとしたい。

(3) 次回以降の開催日程について

- ・第5回 平成25年6月19日(水)現場視察
- ・第6回 平成25年7月 2日(火)午前10時から
- ・第7回 平成25年7月16日(火)午後1時30分から
- ・第8回 平成25年7月30日(火)午前10時から

4 閉 会